障害のある方を、障害者にしているのは誰？

あるデイサービスの職員から「強度のアテトーゼのＣＰの青年。時に一人になって部屋で漫画本や本を読みたくなるが、ページをめくれないとのこと。何か機器を紹介して欲しい。」との相談があった。

早速いつものようにメル友に助けを求めたところ、多くの情報紹介があった（持つべきものは、メル友なり、感謝！）。

自動のページめくり機は開発、販売はされているようである。しかし、２３万～３４万円。しかも、「残念ながら、この品目に対応できるような制度は見当たりません。自費購入になると思います。」とか。また、メーカーが１ケ月２万円弱で貸出もしているので、「貸出を依頼されてはいかがでしょうか？」と、代理店の紹介もあった。いずれにせよこの価格では、在宅の方にはちょっと手がでませんよね。次々と支援費制度、補助制度の課題（問題）が見えてきますね。

ある長期入院中のメル友からは、「同じ位の人がページ捲り機を使っていましたがセットに時間が掛かる割りに上手く作動しなく、今は職員が呼ばれて捲っていますが、近々新たに発売になるページ捲り機の試作を当方に持ち込み使用勝手を試してみるようです。これが上手く使えるようでしたらご紹介致します。今暫くお待ち下さい。

障害者を扱う職員はとかく画一的な思い込みで介助をしますが自分達はホンの少しの力が無いばかりにチョット手を借りたいのです。そのチョットのことが職員には『こんな事まで』と忙しい時には特に思われがちです。

なかなかその人にあった細かい介助とは行かないようです。」との貴重なご意見をいただいた。

この方が云うように、当事者がほんのチョットしたことでも周りに頼み辛くなる。こうした日常の周りに気遣いなく過ごせる気持ちのところで、支える方策、及び気さくな人間関係が充実しないと、障害者はいつまでも障害者ですよね。

自分も今捻挫で車いす生活だけに、実体験が本当の認識に繋がること、身体機能の障害そのものよりもそれに伴う「主観的な障害（覚え書関係：2003/09/13『主観的な障害とは』を参照）」が、日常生活に大きく作用する要因になることを、理解しつつある自分です（今の僕の場合、介助を頼むのが面倒で、出歩くのが億劫になる）。

（2003 年 10 月 03 日 記）